

第9回青森県人づくり戦略推進会議

日 時：平成28年2月15日（月）

15：30～17：00

場 所：青森国際ホテル 3階 孔雀の間

（司会）

皆さん、本日はお忙しい中、本会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
私は、本日の司会を務めます、県地域活力振興課の松野と申します。どうかよろしく願
いいたします。

会議に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。

まず次第、裏面に出席者名簿が記載されております。

それから席図。

資料1、資料2、資料3-1、資料3-2、こちらは木造高校の長谷川さんの資料です。
資料4、こちらはあおり立志挑戦の会の資料です。資料5-1、こちらは県地域産業課の
資料です。資料5-2、株式会社アイティワーク様の資料です。

その他、関係機関の配付資料といたしまして、観光リーダー実践研修についてという県観
光連盟様の資料。学部改組・人材育成事業というタイトルの弘前大学様の資料。

それから、本会議の設置要綱、第12回日本の次世代リーダー養成塾報告書。

それから、挑戦あおりドリームと書かれております、青森型創業事例集でございます。

配付漏れはございませんでしょうか。

それでは、定刻となりましたので、ただ今から「第9回青森県人づくり戦略推進会議」を
開会いたします。

開会にあたりまして、本会議の議長である三村知事よりご挨拶を申し上げます。

（知事）

皆さん、こんにちは。

昨日とは一転変わって、天候、本当に足元悪い中でございますけども、こうして第9回の
青森県人づくり戦略推進会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、常日頃から県政推進への御理解、御協力をいただいております。併せ
て感謝申し上げます。

我々が今、直面しております人口減少、少子化、高齢化の進行、あるいはグローバル化の
進展は、社会の様々な分野に影響を与える大きな変化であり、特に地方におきましては、地
域経済を考える上での最重要課題として、早急な対応が求められていると考えているとこ

ろでございます。

私共青森県におきましては、こういった様々な課題をむしろ成長のチャンスと前向きに捉え、積極果敢に挑戦し、本県が持つ豊かで個性溢れる資源を生かした地域づくりを進めていくことといたしております。

そして、こういった地域づくりを進めていく上で何よりも重要と考えますのは、自ら活動する人達、その活動を支える人、すなわち地域の担い手となる人財、人の宝であります。

私は、知事就任以来、人は青森県が持つ一番の財（たから）であり、人財、この育成こそが、本県にとって最も重要な施策であると訴え続けてきました。

本日は、県がこれまで取り組んできました青森の未来と今をつくる人財の育成についてご紹介申し上げますとともに、日本の次世代リーダー養成塾に参加しました県立木造高等学校の長谷川さん、あおもり立志挑戦の会の会長 田名部さんと卒業生の皆さん、そして、株式会社アイティワーク取締役の岡本さんから体験談、活動状況について発表していただきたいと思っております。

また、八戸工業高等専門学校の前副校長先生、そして弘前大学の曾我副理事、また県体協の坂本事務局次長からもそれぞれの取組について情報を提供していただくこととなっております。

その後、御出席の皆様方と発表者の方々を交え意見交換を行いたいと思っております。

どうぞ、忌憚のない意見交換をお願い申し上げる次第であります。

それでは、この会議を契機に産学官金融の連携が更に進み、私共、青森県が人づくりの先進地青森となることを目指していきたいと考えております。

何卒、皆様方の御理解と御協力をお願いして、御挨拶といたします。

よろしく申し上げます。

(司会)

ありがとうございました。

ここからの進行は知事にお願いいたします。

(知事)

それでは、次第に従いまして、1、県の人財育成の概要について、お願いいたします。

(事務局)

県の企画政策部長の小山内でございます。

私の方からご説明させていただきます。

まず最初であります、本県には、豊かな自然、その自然が育む安全・安心で美味しい農林水産物、伝統的な祭りや先人から受け継いできた固有の文化、さらには新たな地域の取組など、全国に誇ることのできる多様で個性的な地域資源が沢山ございます。

この豊かな地域資源を生かした地域づくりを進めていく上で何よりも重要なのは人財の育成であり、人財の育成こそが未来の青森県づくりの基盤であります。

そこで県では、平成18年に人づくり戦略チームを設置し、未来を担う子ども達や地域の担い手の育成に重点的に取り組んできました。

さらに平成25年度からは、人づくり戦略チームを地域活力振興課に発展させ、人づくり、生業づくり、地域づくりを一体的に推進しているところであります。

あおもりの未来をつくる人財の育成では、子ども達が青森の将来を担う人財としてたくましく成長していくことを目指し、小・中・高、それぞれの成長段階に応じたキャリア教育の推進に教育委員会と連携しながら取り組んできました。

具体的には、教育委員会においては、小中高校生を対象としたキャリア教育の指針を策定、キャリアノートの作成他、学校と企業等を結ぶ仕組みである、教育支援プラットフォームの運営、講師派遣や職場見学に協力する企業の登録・派遣も行っております。

また、地域ぐるみで子ども達が生きること、働くことについて考える学習活動に取り組むための支援や高校生のやる気や意欲を引き出すため、高校生と大学生とのワークショップを実施する、高大連携キャリアサポート推進事業にも取り組んでいます。

知事部局においては、郷土出身の先輩による社会人講話や県内外の様々な分野で活躍する方々に高校生自らがインタビューした冊子「YELL」の配布などを行っています。

こうしたキャリア教育の充実に加え、将来のリーダーとなる人財を育成するための「未来ひらめき創造塾」の開催、日本の次世代リーダー養成塾への派遣のほか、医学科進学を目指す高校生の実力養成、ものづくり人財の育成。

教育委員会においても、中高生向けのイングリッシュ・キャンプを開催するなど、未来を担う人財の育成に県を挙げて取り組んでいるところです。

次に、あおもりの今をつくる人財の育成では、地域の個性を生かし起業・創業、地域おこしに果敢に挑戦する人財の育成に取り組んでいます。

チャレンジ精神溢れる若手人財の育成のために「あおもり立地挑戦塾」や「グローバル人財養成セミナー」を開催しているほか、全国の女性リーダーが集まる「奥入瀬サミット」や県内の女性を対象とした「繋がろう！働く女性・活動する女性のネットワークセミナー」など、女性の活躍推進に向けた取り組みも行っているところです。

農林水産業においても、「若手農業トプランナー塾」や「浜の未来塾」などの取組を通じ、意欲ある若手農業者や漁業者など、本県の農林水産業を支える人財の育成に取り組んでいます。

また、創業・起業を積極的に支援するための「あおもり起業家グランプリ」や「若者・女性起業チャレンジブートキャンプ」の開催、創業希望者を支援するための拠点づくりも行っており、以上のような各分野で育成した人財の横断的なネットワークの形成に向けた交流会なども行っているところであります。

さらに県庁職員に向けた取り組みとして、職員のアイデア、チャレンジ意欲と貢献意欲を

引き出すため、若手職員が自ら企画立案した事業を自らが実施する「庁内ベンチャー制度」などを実施しています。

県民の減塩を推進するために、県産食材を使用した「できるだし」を開発した「だし活」事業や、アニメや漫画を活用し新たな観光客層の獲得を狙った「コンテンツツーリズム推進事業」など、個性豊かな事業が実施されております。

以上、本県の人財育成の概要についてご説明してきましたが、このような取組の結果、青森県内の各所で様々な芽が出てきております。

毎回申し上げておりますが、人づくりは100年の大計であり、県民総ぐるみで人財育成に取り組んでいく必要があります。

そのためには、関係機関の皆様の御協力なくして実現することはできません。

県としては、今後も引き続き「人は宝」として人財育成に力を入れていきたいと考えておりますので、今後も御協力のほど、よろしくお願いいたします。

(知事)

次に(2)となりますが、人財育成の取組の紹介に入ります。

リーダー育成の主な取組の概要について、お願いいたします。

(事務局)

地域活力振興課人づくりグループマネージャーの白戸と申します。

リーダー育成の主な取組の概要としまして、本日は、地域活力振興課が取り組む5つの事業を紹介いたします。

1つ目は、中学生を対象としました「未来ひらめき創造塾」です。

この事業は、JAXAの川口淳一郎教授を塾長にお迎えしまして、平成25年度から開催している中学生向けのサマースクールです。今年度は、8月17日から20日までの3泊4日で、青森市内にあるマエダアリーナを会場に行い、県内在住の中学生34名と三沢基地内の生徒さん4名が参加してくれました。

川口先生には、御多忙の中、毎年、ほぼ全日程を子ども達とともに過ごし御指導いただいております。自由な発想でアイデアを出す訓練、プレゼンテーション、ディベート、人から評価される経験など、川口先生の監修のもと、これからの時代をたくましく生き抜く創造力に溢れるチャレンジャーを育てるためのプログラムを企画・提供しております。

今年度は、理科編での移動物体の工作、英語編でのストーリーの創作のほか、青森県のお土産づくりの体験では、街頭で自分達が作ったお土産をプレゼンし、一般の方に評価してもらいました。

4日間の研修で、子ども達が目に見えて成長していく姿を目の当たりにできる手応えのある事業となっております。

2つ目、こちらは「日本の次世代リーダー養成塾」でございます

この事業は、高校生向けの事業となります。本日は、今年度の参加者の長谷川歩果さんがおこしくされましたので、後ほど、事業の概要説明を交えながら、ご本人からも直接お話ししていただきたいと考えております。

続きまして3つ目ですが、「あおもりグローバルアカデミー」です。

この事業は、グローバル社会に対応し、世界的な視野をもってチャレンジしていく若手人材の育成を目的に、大学生から社会人を対象に行っているセミナーで、今年で3年目となります。

全3回、毎回1泊2日の日程で実施しまして、大学生や社会人30名が受講、過去3年間で合計82名が参加しております。

実行委員会の会長を務めていただいている弘前大学学長特別補佐の井口泰孝先生には、毎回ご出席、ご指導いただいていますほか、今年度は、昨年度に引き続きまして講師として在札幌米国総領事館ジョエレン・ゴーク首席領事をはじめ、国内外で活躍している様々なゲストをお迎えいたしました。

また、このセミナーは、三沢市と共同で開催しており、米軍三沢基地と連携したプログラムが特徴となっております。

米軍基地内大学の教授による講座ですとか、基地内でのフィールドワークなど、普通、なかなかできない貴重な体験をすることができます。

なお、このセミナーでは、修了した後も継続的にフォローアップを行っており、修了生は本セミナーの聴講ができるほか、今年度は修了生に向けて更に高度なグローバル志向、ビジネススキルの向上のための研修も実施しております。

4つ目でございます。「あおもり立志挑戦塾」です。

この事業は、志を立てて挑戦していくチャレンジ精神溢れる若手人材の育成を目的に平成20年度から実施しており、今年で8年目を迎えます。

事業構想大学院大学の天明茂教授を塾長にお迎えし、5月から11月まで全6回、1泊2日の日程で実施しております。

今年度は20名が修了し、これまでに計187名の方々が修了しております。

塾には、毎年、県内外で活躍する講師をお迎えするほか、地域の発展のために自分達に何ができるか、夜遅くまでディスカッションをし、ここで培われた絆を糧に卒業生は自分の職場や地域など、県内各地で縦横無尽に活躍しております。

本日は、このあおもり立志挑戦塾を修了した方々で作る「あおもり立志挑戦の会」におこしいただいております。この後、会の活動などについてお話しさせていただきます。

最後になります。「奥入瀬サミット」です。

この事業は、女性リーダーの人財育成とネットワークづくり、十和田湖奥入瀬溪流におけるセミナーツーリズムの振興を目指し、毎年9月に星野リゾート奥入瀬溪流ホテルを会場に平成24年度から開催しているもので、今年度で4回目となります。

今年度は、過去最高となる65名の参加があり、これまでに延べ212名の女性リーダー

にご参加いただきました。

毎年、第一線で活躍する方々を講師にお迎えしており、今年度は、「花子とアン」を書かれた脚本家の中園ミホさんやANA常務取締役執行役員の河本宏子さんなどにおこしいただき、女性の生き方や働き方についてお話いただきました。

また、今年度から働く女性の活動をトータルで支える視点から、健康にも光をあてまして、本県出身で産婦人科医としてご活躍の対馬ルリ子さんやミス・ユニバースジャパンの公式栄養コンサルタントのご経験もあるエリカ・アンギャルさんらをお迎えしたところ、参加者の方々から大変好評を得たところです。

以上、地域経済、地域づくりをけん引するリーダー育成の取組の概要についてご紹介いたしました。

(知事)

次に第12回日本の次世代リーダー養成塾について、事務局から事業概要を説明した上で、長谷川さんの方から行ってきたことをいろいろとお話いただきたいと思います。

(事務局)

それでは、まずは事務局から日本の次世代リーダー養成塾の概要について説明いたします。

日本の次世代リーダー養成塾は、政財界や地方自治体を中心となって、全国の高校生を対象に日本だけではなく、世界に通用する人財の育成を目指したサマースクールです。

第12回を迎えた今年度の塾には、青森県内の高校生11名を含む日本の高校生167名に加え、アジア5か国から19名の高校生が招待され、2週間の日程で福岡県宗像市のグローバルアリーナをメイン会場に高校生達が寝食を共にして切磋琢磨しました。

青森県からは、男子2名、女子9名の併せて11名の高校生が参加しました。

壮行式では、一人ひとりが知事に決意表明をして、知事からの激励の言葉を胸に福岡へと旅立っていきました。

講義には、国内外の文化・政治・経済など、様々な分野で活躍する一流講師が招かれ、学ぶことの楽しさ、人としての生き方がどうあるべきかを学んできました。

日本とアジアの学生によるプロジェクト型の取組として、昨年から実施されている「アジア・ハイスクール・サミット」では、高校生が拓く平和な未来というテーマのもと、世界から戦争を無くすために若い世代が何をすべきか、国際貢献のあり方はどうあるべきかを高校生ならではの柔軟的な発想で徹底的に議論しました。

2週間に及ぶ塾での活動を通じて、高校生達は一回り大きくなって帰って来ました。参加した高校生の皆さんが将来、日本、そして世界のリーダーとして活躍することを心から期待しています。

以上で事務局からの説明を終わります。

続いては、青森県から塾に参加した高校生を代表しまして、木造高校3年の長谷川歩果さんから感想を発表してもらいます。

(長谷川歩果さん)

青森県立木造高等学校3年の長谷川歩果です。

日本の次世代リーダー養成塾で学んだこと「チャンス、チャレンジ、チェンジ」の発表をします。

私が、日本の次世代リーダー養成塾に参加したいと思った一番の理由は、日本全国やアジア各国から集まった高校生と積極的にディスカッションをし、多くの仲間の意見を取り入れ、多面的に物事を考える力や失敗を恐れずチャレンジする勇気を身につけたいと思ったからです。

先ほど、説明があったように、青森県からの高校生11名を含む日本全国の高校生168名、アジア各国から集まった高校生19名、計186名が福岡県のグローバルアリーナに集結しました。

ご覧のような一流の講師陣の講義を受け、世界に目を向けることの重要性を学びました。特に印象的だったのが中村ブレイス株式会社社長である中村俊郎先生の講義です。

日本で一番大切にしたい会社の本を読んで尊敬していた方です。その方が過疎化が進んだ町で、日本では数少ない義肢装具づくりをされており、ビジネスをする上で後継者を持つことが必要であると学びました。

志があれば、困っている人や苦しんでいる人を救うことができると実感しました。

今年のアジア・ハイスクール・サミットのテーマは、「高校生が拓く平和な未来」でした。

7つの国に分かれ、10年後の平和な未来をどのように実現させるか考えました。

私は、くじ引きで軍も核も資源もない今の現在の日本と類似した国、E国を担当しました。

10年後の平和な未来をどのように実現すべきか、グループ内で議論し合いました。課題は、世界平和の実現に向けた国際貢献施策だったため、既存の施策ではなく、高校生ならではの斬新なアイデアが求められていました。それゆえ、思うように話し合いが進まず苦しみました。

しかし、中盤からブレインストーミングという方法を用いて、皆が意見を出し合いやすく認め合う雰囲気づくりができました。

ブレインストーミングという方法は、普段の学校の生活で用いられている方法です。

その後、自分から意見を述べることを拒んでいたチーム内の人達もこの方法を用いるようになってから、自分から積極的に意見を述べるようになり、チームE国全体の絆が深まりました。

そして、最終的に全ての人々が安心して暮らせる世界というE国の理念を実現させるため、E国の国際貢献政策の1つに「E国弁当」を掲げました。その国ならではの食材を用いてお弁当を製造することで、文化や宗教の違いを互いに認め合えるような環境を築くこと

にも繋がりました。核も資源も軍隊もない国、E国だからこそ実現できた政策です。

ディスカッションを繰り返しながら、言葉で意見をもった子ども達との意見を繋ぎ合わせ1つの答えを作り出していくことの難しさを痛感しました。

最終発表では、1位と1票差の2位でとても悔しかったのですが、具体性のある国際貢献政策で合理的にとりまとめられていたとのご講評をいただきました。

また、英語での発表を行いました。

発表を終えてマハティール先生からいただいた「あなた達が描いた平和な未来の理想を大人になっても忘れないでほしい」という言葉が私の心の中に強く響きました。

日本全国やアジア各国から集まった高校生と世界平和について議論した日々は、普段の学校生活では味わうことのできないかけがえのない時間となりました。

正解のない問題に仲間と共に向き合った時間は、私にとってかけがえのない財産となりました。

特に2週間ベッドが隣り同士になった中国の高校生「杜嘉」さんと友達になれたことが、私にとって最大の財産です。杜嘉さんは、向かって、このスクリーンにある左側の女の子です。成都外国語学校に通う高校2年生で私よりも年下です。ですが、日本語は勿論のこと、英語だけでなく、フランス語や韓国語など、多くの言語を話すことができるとも素晴らしい女の子です。

リーダー塾に参加する前の私は、日中関係が良好でない現状であっても、どこか遠い世界の問題で自分には関係のないことであると考えていました。

しかし、そのため、中国の高校生は、日本が満州事変などの侵略を犯したために日本を憎み、日本を嫌いだと思っていたに違いないと思い込んでいました。

しかし、杜嘉さんはとても親日的で日本が大好きだということが分かりました。過去の歴史については授業で学び、日本を許せないと話していましたが、一人ひとりの人間としてお互いの国の文化について語り合うことができ、きちんと向き合って話をすることでお互いの気持ちを理解しあえることを強く感じました。

リーダー塾を卒業した今でも、お互いの国の文化や歴史について多くのことを語り合っています。

1月には、インターアクトの翼で台湾に研修に行く機会があり、中国語によるスピーチを行いました。中国語初心者なのに中国語を教えてくれたのは杜嘉さんでした。そのことで台湾の高校生と中国語で会話をすることができました。

以上のように、リーダー塾に参加するチャンスを与えてくださった青森県の皆様のおかげで、日本の全国の高校生やアジア各国の高校生と積極的にディスカッションにチャレンジし、自分自身の物事に対する考え方や行動を大きく変化、チェンジさせることができました。

このような貴重な機会を与えてくださった青森県の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

では、最後に、9月9日クローズアップ現代、「私たちは“内向き”ですか？～若者たちは今～」でリーダー塾の内容が放映されましたので、約3分程度ご覧ください。

(平成27年9月9日放送 NHK「クローズアップ現代」の内容の一部)

合宿が終盤に入ると、就寝ぎりぎりまで高校生達は話し込むようになりました。

この日、海外で日本語を学ぶ高校生と、日本の学生達との会話が始まりました。

議論に加わっていた一人、青森から参加した長谷川歩果さんです。

学校では、部活動の部長を務めながらも、極力目立たないようにしているという長谷川さん。

『目立つと本当に駄目なんです。目立てば、SNSだったりとか、ツイッターとかで悪口を言われるのが、今の学校の感じなんですけど、ディスカッションをしようという場があれば、そういうことも皆で考えるきっかけになるのかなと思います。』

長谷川さんが求めていた同世代との議論が互いの歴史認識まで及びました。

毎晩、お互いの声に耳を傾け続けるうちに相手への見方も変わってきました。

『お互いを尊重し合えるような仲になると思います。友達になることで、その国とは喧嘩をしたくないと思いますし』

『お互いを肌で感じるよね』

『そう』

最終日、再会を約束して高校生達は合宿場を後にしました。

新学期、青森に戻って長谷川さんは、合宿での体験を友達に話してみました。

周囲からちょっと浮いているのを感じながらも、長谷川さんは自分の変化を嬉しく思っています。

『他の人の意見を聞くことで、こういう考えも生まれるんだなと思いました。こんな貴重な体験、もう一生ありませんから、本当に。自分にとって財産です。』

ご清聴ありがとうございました。

(知事)

素敵で、しかも力強いというか、よく頑張ってきてくれました。ありがとうございました。
では続いて、立志挑戦塾の方からお願いします。

(あおり立志挑戦の会)

こんにちは。

あおり立志挑戦の会の会長を務めさせていただいております田名部と申します。

私から、あおり立志挑戦の会のご紹介をさせていただきます。

あおり立志挑戦の会とは、あおり立志挑戦塾を卒業した1期生から8期生が所属しております。今では150名ほどの会員数となっております。私は、その4期生となります。

地区は、青森地区、津軽地区、南部地区、まさかり地区の4地区となっております。

会の目的をご紹介します。

仲間とのつながりを大切にする。

主体的に学び、行動し、共に成長する。

共に成長する場として外部での活動を積極的に行う。

主な活動を3つご紹介します。

1つ目、立志挑戦塾のサポートを行っております。

2つ目、地区会と呼ばれる例会を行っております。

3つ目、各期が立ち上げた事業があります。

1つ目の立志挑戦塾のサポートをご紹介します。

平成21年から行っております。

我々は、立志挑戦塾を通して一生付き合えるような仲間と出会うことができました。その出会いの場となった立志挑戦塾がこの先も10年、20年続けていけるように全力でサポートしたいと考えております。我々挑戦の会には、最優先の活動と位置付けております。

具体的に何をやっているのかと言いますと、会場の設営から始まりまして講師の派遣、グループディスカッションの内容の検討やファシリテーターも行っております。

主な活動の2つ目として地区会をご紹介します。

我々は、仲間との繋がりを大切にするためにこの会にいます。そのためには、やはり直接会うというのが大事だと考えております。そのために直接、定期的に会う場としまして、地区会を開いて、そこから会自体を盛り上げていこうと考えております。

地区会の魅力アップのために、交流会プラス勉強会を行っております。勉強会では、会員の発表であったりグループディスカッション、講師を招いて講話を行ったりしております。こちらが勉強会の写真になりまして、こちらが交流会になります。

また、主な活動の3つ目としまして、各期が立ち上げた事業があります。「もっとユメココ」「あおりマルシェ」「立志巡祭」「A-f-o-r」「まさプロジェクト」5つのプロジェクトがあります。

こちらについて、事業統括副会長の和田の方からご紹介させていただきます。

立志挑戦の会事業統括副会長をさせていただいております和田と申します。よろしくお願いたします。

まず、1つ目の事業といたしまして「もっとユメココ」という事業を執り行っております。

こちらの方は、3期生が立ち上げておりまして、今年度は県内6校にて出前講座を開催いたしました。

私達、所属している会員は、県内でいろんな職業に就いている、文字通り第一線で活躍している人々の集団というふうな形になっておりますので、その人財と学生達の交流というふうな形でこの活動を行っております。来年度も引き続き行っていくというふうな形になっております。

2つ目、「あおもりマルシェ」という活動。これは、4期生が立ち上げております。今年度で4年目というふうな形になっております。

青森のもっと良いものを青森の人に知ってもらおうということが趣旨としてやっております。

この度、例年は新青森駅の方でやっておりましたが、今年度より、駅前の方が使用ができなくなったという関係もありまして「わくわく広場」の方で開催いたしました。最初の方は、かなり不安もございました。本当に移動してお客様に来ていただけるのかというような部分もありましたけども、この度、本当に皆の力を合わせて頑張ったというふうな形がありましたので、2014年度、合計で3万4500人ほどの集客というふうな形に繋がったという、一大イベントになってきたなというふうな形で思っております。

そして、「立志巡祭」こちらは5期生が立ち上げたものになります。清掃活動を主とし、地域の魅力、人を知り交流を深める事業というふうな形で執り行っています。これは、今別の秋祭りの方で清掃活動と共に秋祭りを応援したというふうな形になっております。こちら、今、頭に被っているのが5期生の立志巡祭の実行委員の皆様で、このような形で地域を活性化させようというふうな形になっております。

そして、こちらが深浦町の方で同じように清掃活動を行いました。こちらの方は、深浦町商工会の青年部の皆様とマッチングというふうな形で行った結果、深浦町商工会青年部の皆様があおもりマルシェに参加していただけるというふうな形になって、事業としても、横の繋がり、縦の繋がりというふうな形で広がったというふうな事例になりました。

そして、6期生が立ち上げました「A - f o r」こちらの方が各地に行きまして青森人を繋ぐハブとなるような活動をするということで執り行っております。

今年度は、むつ市の宮下市長と交流、そして地元の学生達とのディスカッションを通じて、私達の活動を知ってもらうとともに、こういう熱い思い、青森に対する熱い思いというものを共有して、今後に生かしていこうというふうな活動としてやってきました。

また、八戸でも同様に様々な地域での活動ということを知る上で、また青森の良さというものを私達が再認識できたというふうな活動になっております。

そして、次が7期生が立ち上げました「ままさプロジェクト」というものになります。

よく、昔から「熱つうままさ筋子」とかっていうことを言いますけども、「ままさプロジェクト」というものを文字通り行いました。青天の霹靂が昨年、大々的に成功を収められましたので、それを応援できるような形で7期生達が立ち上げております。

こちらの活動は、2014年の青森ブランドプレゼンテーションに出場いたしまして、何と見事に大賞を受賞したというふうな形の活動になっております。ただ大賞を受賞した

けでは終わることはなく、「青森まるっとよいどころ祭り」昨年、青森公立大学様とマッチングして、この活動を更に広げていこうというような活動を執り行っております。

事業の方は以上になります。

以上が事業のご紹介になりました。

これらの事業で不思議と共通しているキーワードが出てきています。

それが、青森のことをもっとよく知ろう、そして青森のことを好きになろう、そして、その魅力を他の人に伝えていこうというのが共通しているキーワードとなっております。

よく、青森の人って、県外の人に青森のことを紹介する時に「青森には何もないよ」とか、そういうことを言う人、結構いると思うんですよ。私は、それは間違っているというか違うなと思っていました、やはり青森には良いもの、良い人、良い文化、いろいろ沢山あると思うんですよ。ただ、そういう人達というのは、魅力を知らないだけだと思うんですよ。ですから、やはり青森のことを県外の人にお伝えしようとした時というのは、やはり自分が好きでもないものって紹介できないと思うんですよ。

そういう意味で我々は、この「知る」ということをスタートにして、そして好きになって、それを他の人に伝える、これについてこだわりを持って様々な事業の活動をしていきたいと考えております。

最後になりました。

こちらの写真、私が立志挑戦塾4期生の時の知事への報告会の時の写真になります。

このスライドに1つの言葉が書かれております。

「志をもって、魅をまとい 人を巻き込む渦となれ」

私、この言葉大好きなんです。どうしても、あおもり立志挑戦塾、あおもり立志挑戦の会という、青森のためとか、地域おこしのために、そういったイメージが強いと思うんですけど、私、そこはそんなに強く意識しなくても良いと思っています。

やはり大事なのは、自分がどういう想いを持って、そしてその想いからどういう行動をおこして、そしてそのおこした行動によって自分がどういう人間になっていくか、そこが大事だと思っています。

やはり正しいことをして人間的に磨かれていけば、そこには自ずと人が集まってくると思うんですよ。そして、その人達によっておきた自然な活動というのは、結果的に青森のため、地域おこしのため、そういうことに繋がるのではないかと考えております。

以上が我々、立志挑戦の会のご紹介となりました。

ありがとうございました。

(知事)

はい、ご苦労さん。

ARC 本当に自ら次々と伸びていくというか、いいね、イノベーションしていくとか。

長谷川さん、どうでしたか。

(長谷川さん)

とても尊敬します。

(知事)

君達若い世代に全然負けていないでしょう。

では、創業支援の取組についてお願いします。

(地域産業課)

県地域産業課の宮古と申します。

私からは、創業支援による起業家養成の取組をご紹介します。

まず、創業支援の必要性ということでございますが、自ら雇用を生み出すことで安定した雇用の確保に繋がるという点が重要な役割として挙げられます。

具体の事例としましては、首都圏等で身につけた資格や技能を活かして、例えば、青森の地域食材を使ったレストランを開業するとか、IT関連の事業をするといったようなUターンによる創業。

また、社会や地域へ貢献したいという生きがいとかやりがいを活かしたシニア層による起業。

また、エステ、ネイルサロン、美容といったようなサービス業でありますとか、食料品や雑貨等の小売業といったような生活に密着した女性ならではの起業といったようなものがございます。

これらの起業家の皆さんは、勿論、地域の活動、元気づくりの核となって活躍されているということでございます。

次に、創業者数の推移についてこれは県内3市に4つある創業支援拠点施設を利用した方ということでは限定的ではありますが、近年、大変増加傾向にあるということがご理解いただけるのではないかと、思います。

次に、県の創業支援の取組ですが、1つとしては、起業マインドを醸成するとか、起業家の皆さんを発掘して育成するという事。もう1つは、創業支援拠点の拡充と専門家による支援を行うということで、これらの2つを柱として、市町村、商工会議所や商工会といった団体、創業資金を融資してくれます生活金融公庫とか金融機関、大学、そういったところと連携し役割分担をしながら一体的に取り組んでいるということでございます。

具体の取組ということで、「あおり起業家グランプリ」があります。知事にも、昨年度、出席いただきまして行いました。4人の方が受賞したのですが、今年度、皆さんそれぞれ起業されております。

次に、取組2の支援拠点の拡充ということでは、現在、五所川原、三沢、むつにも新しい

創業相談ルームというものを作って取り組んでおります。

皆様のお手元に「A D r e a m」という冊子をお配りしておりますが、多くの起業家の皆さんの中から県内12名の方を抜粋して、どういう経緯で、どういう事業に取り組まれているかということをご紹介しております。

次に起業家を代表して、株式会社アイティワークの岡本さんから日頃の活動内容等についてお話いただきますので、引き続きよろしくお願いたします。

(知事)

では、岡本さんお願いします。

(岡本信也氏)

アイティワークの岡本と申します。

今日は八戸市からやって参りました。

起業して4年目の企業となります。4年間の軌跡を8分間の間にギュギュッと詰めて報告させていただきたいと思います。

私達の会社ですが、今日、お伝えしたいのはこの3つになります。

最初は会社紹介をさせていただいて、次にメインの起業からの軌跡と、最後は私達の目指すモデルということで、この3つをお伝えしたいと思います。

まず、会社の紹介ですが、私達は青森県の八戸市でシステム会社、格好よくいいますとIT企業というふうな形の会社を4年前に起業いたしました。現在は、4期目となっております、社員は8名、私と社長を入れますと全体で10名というふうな形で事務所を借りてやっております。

やっている内容は、東京の仕事を八戸市に持ってきて、そこでシステムの開発をして納品するというふうな形のモデルで売り上げを立てているという感じです。

分かりやすいところでいいますと、スマートフォンのアプリですとか、そういったものを開発しております。

これが、私達の会社のメンバーです。

私達の会社のメンバーで特徴的なのは、全員、社員の全員が人財育成の補助金を使った研修生あがりの社員だということが弊社の特徴になっております。

システム会社といいますと、大卒ですとか、中途採用の方が採用されて経験者としてスタートするところが多いのですが、私達の会社は研修生あがり、すなわち全員が素人というところから、この教育だけすればいいというところで、一点突破の教育をして、今、3年目、4年目のエンジニアが殆どです。こういった形で全員が研修生あがりというふうな形が弊社の特徴になっております。

そうしましたら、次に起業からの軌跡ということで、4年間、それぞれ目的を持ってやって参りました。その目的を達成、どのようにやってきたかというところを紹介したいと思い

ます。

まず1年目なのですが、やっぱり給料を払わないといけないので、まずは売り上げを確保するというふうなところが重点的にやってきたところになります。

どんなことをやってきたかといいますと、やっぱり東京が私達のお客さんのメインになりますので、まずは場所を借りる、パソコンを用意する、デスクを用意する。こういったところで家賃が一番安い物件を探して、このような形でスタートしました。

実際にお客さんは一から作らないといけませんので、どうやってやったかといいますと、やっぱり経費節減ですとか、時間を何とかしないといけないので、夜行バスで日帰りするというふうな形で東京に営業に伺うと、日中は営業して帰ってきて、夜に開発をして納品するというふうな形でかなりヘビーな形で仕事をしました。

お陰さまで、これで何とか1年目は黒字で終わるというふうなことができて、社員もそこそこいたんですが、何とか1年目、売上を立てるところは達成できたのではないかと思います。

そうして、1年がむしゃらにやってきたんですけど、少し振り返った時に、私達、売上を立てることを目的にやってきたのですが、これであれば青森県に事務所がある必要もなく、東京から持ってくるのであれば仙台でもいいし、岩手でもいいし、秋田でもいいと。私達が青森県で仕事をしているのは何でだろうというところを皆で話し合いました。

その結果、2年目は何をやったかという、自社製品を開発しようというふうになりました。これは、自社製品を開発しようというのは何故かと言いますと、私達が地域にいるということは、私達はやっぱり地域に携わった何かをやらなきゃいけないというふうなところで、地域の課題解決を解決するための自社製品を開発しようというのが2年目のミッションになりました。

私達が開発したのは、こちらの「アグリレジ」といいます。産地直売所の中で使うポスレジをこのような形でタブレットを全面に使用したポスレジを開発しようということを2年目に考えました。

これは、何故かといいますと、地元の農家さんと話をしていた時に、こういった会話がありました。産直にわざわざ行かないと自分の在庫がどのくらい売れたのか、目視しないと分からないんだと。畑から行くのは非常に大変だというふうなところでご相談いただきましたので、じゃ、私達ができることをやろうということで作ったのが、この初代のポスレジというふうな形になります。

一見変わっておりますが、こういった形のタブレットを全面に操作していただくというふうなところで、いろいろ試行錯誤して、何とか自社の製品ができたと思います。

3年目は、これをPRしようというのが目標です。

いろんな展示会ですとか、全国で行われているビジネスプランコンテストとか、そういったものにも出させていただきました。

また、今年度になりますけども、県が実施している「レッツbuyあおもり」の認定商品

にも認定させていただいて、頑張っP Rをした結果、今では少しずつですが導入している店舗が増えてきているというふうな形で、今年度は弘前の方にも導入しようというふうな動きが出てきております。

4年目、今年になりますけども、私達、やっぱり社員が人財育成で成り立っていますから、やっぱり私達も地域に人財育成という恩返しをしようということで、私達自身が人財育成の先生になろうということに取り組みました。

どういったことをやったかといいますと、これは、毎月1回土曜日、私達が提供できるアンドロイドのアプリの開発というふうな講座を開いてみたり、あとは月1回、仕事が終わってから地元のIT企業の仲間を募ってITの勉強会をしたりとかしました。

一番大きくやったのが、青森県の新産業創造課から委託をされているスクールキャラバン事業です。こちらの方は、八戸商業高校と協力をしながら、アンドロイドのアプリの開発のサポート、もしくはプレゼンのサポート、こういったことをしていきました。

その結果、県大会、東北大会、こういった課題解決、課題研究という授業があるんですが、それを発表する商業高校の大会があるんですが、それが青森県大会、東北大会とありますけども、それを順々に勝ち抜いて行って、何と全国で最優秀賞受賞というふうな、県内初の偉業に結び付きました。

これは、私達の力だけではないんですが、何とかサポートしていった少しの成果物ではないかと思っております。

その結果、またこの携わることによって、この高校生が地元の課題解決をサポートしているポスレジだとか、そういったものを提供している私達の会社に入りたいというふうな生徒さんが出てきましたので、今年、高卒の新卒を1名出すことができました。こういったことも実績に繋がったのではないかと思っております。

最後に私達の目指すモデルなんですけども、4年間やってきて、私達はどのようなモデルにならないといけないかというところを1枚の図にしました。

私達の会社があります。私達の会社は、今までも県外から、殆ど東京ですけども、仕事だったり技術だったりお金、こういったものをいただきながら、今は売り上げが成り立っています。

これを私達の利益とするだけではなくて、こういったものを県内の方に人財育成に投資をしたりですとか、課題解決、沢山ありますから、こういったものに提案していくというふうなのが私達の存在意義だというふうなところで県外から仕事をいただいて、県内に還元していくというふうなモデルを目指していきたいと思っております。

最後になりますけども、東京へ営業に行きますと、沢山仕事はあります。それも、パソコンだけで仕事ができるような仕事が沢山ありますので、IT人財の方をもっと沢山作りまして、IT企業、こういったものがどんどん増えていけばいいなというふうな私の希望をお話させていただいて、報告とさせていただきたいと思えます。

ありがとうございました。

(知事)

ありがとうございました。

益々のご発展期待しています。

それでは引き続き、関係団体の方から、高専の方からお願いいたします。

(八戸高専)

八戸高専の工藤でございます。

高等教育全体の大きな流れとしまして従来型の課題解決能力の育成ではなく、課題発見解決能力育成の重要性がクローズアップされております。本校におきましてもこのことを踏まえ、学生一人一人が自分で学習したいことについて、自由にテーマを設定し、調べたり実験したりし最後に発表をする課題発見解決型学習を可能とするよう、通常授業をしない3か月間の自主探究学習期間を設けた八戸高専4学期制を今年度から始めました。

手探り状態で実際にやってみましたところ、いくつかの問題点も浮き彫りになりましたが、体育館で学年ごとに行われたポスター発表会においては、青森県の短命県返上に関する事などの地域課題も取り上げられるなどし、学生の発想の面白さや通常の授業では見ることのできない生き生きした学生の姿を見ることができました。今後はこの経験を踏まえ、全国科学技術コンテストなどの外部団体主催のコンテストに応募できる学生が育ってくれるようにしていきたいと考えております。また、高専のミッションの1つに地域との共生がありますが、COCやCOC+などとの関連を踏まえ、より多くの地域の課題に着目できるような仕組みづくりも考えていきたいと思っております。

本日は、先ほどから様々な貴重な活動についてのご報告を拝聴させていただきましたので、これらを持ち帰りまして、今後の参考にさせていただきたいと思っております。

ありがとうございました。

(知事)

本当に大胆に学期制を変える、校長先生からもお話を伺っていましたが、思い切って進めるということでチャレンジに期待いたします。

では、弘前大学の方からお願いいたします。

(弘前大学)

弘前大学副理事の曾我でございます。

よろしくお願いいたします。

レジュメを用意しておりますので、横になっているレジュメをご覧ください。

弘前大学は、平成26年12月に三村知事ご臨席のもと、学長が地域志向大学改革宣言というものをいたしました。

今、全学をあげて地域志向の大学としてパフォーマンスを高めるべく、様々な改革を行っ

ております。

まず、その1つがレジュメの左上にあります学部の改組です。

弘前大学は、平成28年度に学部改組を実施し、高度な教育研究と人財育成を通して教員養成の質的充足、理工学系、農学系人財の育成強化、グローバル化の推進を柱として、社会に寄与することを目指す、こういう目標を立てて現在進めております。この4月から新しいシステムで大学は運営されて参ります。

次に横にいきますけども、2つのCOC、COCプラス事業というものについてご説明いたします。

これは、地域志向を強める大学が、大学だけでなく、自治体や企業などと協力しながら地域の発展をより目指すという、そういう事業であります。

1つ目の「青森ブランド」の価値を創る地域人財の育成では、地域志向科目を200科目作り、全学生がその中から選んで学ぶという、そういうシステムを作りました。これによって、地域を愛する学生を作って参ります。

更に、その横のオール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業では、青森県の10の大学、高専とともに、地域への就職率を10%向上させることを目指しております。

これは、具体的に数値で申し上げますと、平成31年度には、我々参加大学の卒業生の48.1%を地元で定着させようということで、これは大学だけではなく、100余りの企業、公共機関などとも連携しながら進めているところであります。

さて、地域志向といいますと、何やら地域に留まってしまう、そういう内向きの学生が想像されるかもしれませんが、けれども我々が目指しているのはそのような学生ではありません。むしろ、グローバルにもものと考え、地域で活躍できる、こういう人財です。それがその横、「弘前大学グローバル人財育成事業 学生市民等協同プログラム」です。

これは、大学の教員、学生、そして市民、あるいは企業の職員の方々とともに、海外と一緒にあって出掛け、そこで様々な課題を見つける。あるいは、青森の製品をプロモーションする方法を考える。こういったことを実地に学ぶ、こういうプログラムを弘前市と共に現在進めております。

下の段に参ります。左から、めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人財育成事業。これは、経産省のお金を使って行っている事業で、人文学部が行っております。これは、青森の魅力を高めるサービス産業起業家人財の育成を目標としたものです。

今まで、大学は、ともすると起業という点は弱かったかもしれませんが、けれども、今後、21世紀の青森を活力づけていくためには起業が大事だということで、我々もこれに取り組んで参ります。

更に子どものこころの発達研究センターというものを作りました。未来を育てるためには、子どもということで、子どもの心の問題に対して、早期に対処できるように、医学的な見地から対処できるように行うのが、このセンターの教育研究事業です。

更に2つ続けて、高度実践被ばく医療人財育成プロジェクト、それから被ばく医療プロフ

ェショナル育成計画。この2つは、本県の立場を反映し、国際基準に準拠した非常に高度な被ばく医療人材を育成しようと、これは、大学の中でも行うとともに、社会で既に活躍しておられる社会人の再教育というような役割も担うものです。

以上、8つ、弘前大学が現在地域志向を強める中で行っている事業についてご紹介いたしました。

(知事)

ご苦労様でした。またご期待申し上げます。

是非、我々と共にいろんなことを進めていただければと思います。

本当に大学も良い方向と一緒に変わってくださったと、ひたすら感謝しております。

それでは、県体協さんお願いします。

(県体育協会)

青森県体育協会の坂本と申します。

貴重なお時間をいただきまして、大変ありがとうございます。

資料等はありませんが、口頭のみで失礼いたします。

先般、一部新聞等にも掲載されておりましたが、先月の1月12日から16日までの5日間にわたりまして、八戸市を中心として日韓青少年スポーツ交流受入事業が開催されました。

この交流事業は、日本体育協会の主催事業であり、韓国と日本の中学生を対象に毎年、国内各地において持ち回りで開催されております。

今回で14回を数える事業であります。この度、私共青森県体育協会が委託を受けまして、本県の中学生たちをメインに事業全般、携わることとなりました。

本県では、これまでもアイスホッケー競技や体操競技において韓国との交流を継続的に行ってきておりますが、今回の大きな特徴としましては、スケート、アイスホッケー、カーリングと、いわゆる氷上3競技を同時に行い、かつ両国合せて約200名が参加するという大規模な交流事業は初めてということでありました。

主な事業内容としては、両国の生徒達がそれぞれの種目において合同練習や親善試合に臨んだほか、文化・歴史探訪と称して県内の自然、文化施設等を見学したり、先般も佐々木副知事や他、本日ご出席の中村教育長にもご出席を賜りました。夕食会などを催して親睦を深めるなど、大変盛り沢山の内容でありました。

全日程を通して両国の中学生の参加者からは、「大変良い刺激になり、自分がどのレベルなのかがはっきりと分かった。」とか、「いつも違う練習環境でとても新鮮だった。」また、「言葉は通じないけれども、思い切って身振り手振りなどのジェスチャーをして通じた時は本当に嬉しく、いろいろな話ができて、また新しい友達もできた。」等々の感想が多数寄せられており、和気あいあいと交流を深める生徒達の姿が大変印象的でありました。

また、実は今現在においては、私共の担当職員も含めまして、先般、参加した中学生を中心に今回の逆パターンとなりますが、派遣交流事業がただ今、韓国で行われております。今週一杯を目途に韓国に滞在して、様々な交流活動を行うこととなっております。

この交流活動を通じて感じるのですが、子ども達が競技面において刺激を受けるのは勿論ですが、国際交流そのものも経験が大変大きいということでもあります。国際感覚を養うことで、将来、国内外において活躍できる人財の育成に繋がっていくであろう、大変貴重な機会であると感じております。

今後、本県においては、様々なスポーツに関する施策も進められていくことと思いますが、私共といたしましては、従来の競技力向上等に向けた取り組みは勿論でありますけども、今回の交流事業を始めとした活動にも積極的に取り組んでいくことで、本県の人財育成ならびに推進に少しでも貢献していけたらと考えております。

以上、提供させていただきます。

ありがとうございました。

(知事)

ご苦労様でした。

益々、お願いします。

それでは、情報提供を終わらせていただきまして、3の意見交換ということです。

本日、県の方からは、リーダー育成、起業家養成の取組を紹介いたしました。

また、ただ今、教育機関からも情報提供をいただきましたが、例えば、今後、青森の未来を担う人財育成などについて、これまでの発表に対しましてのご意見、ご質問含めて何かございましたらお願いしたいと思っております。

その他、グローバル人財、女性人財、ものづくり人財の育成などについてもございましたらばということをお願いしたいと思っております。

では、何かございませんでしょうか。

ご本人においでいただいております、高等学校校長協会の成田会長から、まず、口開けですいませんが、お願いします。

(成田会長)

発言の機会をいただきありがとうございます。

高校生、実は、今、全ては知りたいという気持ちから高校生の様々な活動は始まっていると思います。知りたいという気持ちを引き出すために、あるいは育てるために学習の機会とか体験の機会を設ける、そのことで生徒はおそらく成就感を得て、感動体験を得て、それが大きければ多いほど、子ども達は大きく成長して、我々高校教師としてはびっくりするぐらい本当に大きく育ちます。

その事例として、2月の6日に、県教委が、県教育委員会が主催で探究学習の発表会とい

うものをやりました。農業高校、商業高校、それからSGH、スーパー・グローバル・ハイスクールの学校、それからSSHの学校、それから理数科を持っている学校の十数校が発表しました。

この発表は、本当に素晴らしく、文部科学省の方から調査官がおいでになりましたけども、凄いお褒めのお言葉をいただきました。これは、おそらく地域にも、地域の発展にも活かされるものではないかと思っております。高校生は、本当に、そういう学習の機会とか場を設定すると、乗数的に加速度的に成長するというのを身を持って体験して、高校生って凄いなと思いました。

ついでにもう1つ、私達、高校教師は、勿論、未来の子ども達のために毎日仕事をしているわけですが、未来を擁するというのも凄く大事なことで、当然、やらなければいけないことなんですけど、先ほどの発表を聞いていまして、今の大人がどう輝いているか、きちんと輝いて、今の大人は生きているかというふうなことが大事だなと思いました。

先ほど、発表のありました立志挑戦の会とか、岡本さんの発表を聞いていて、そういう輝いている姿を高校生に見せたいなと思いました。大人が輝いていれば、おそらく高校生も益々頑張れるのではないかと思います。

地域の活動が、やがてその地域ごとの面になって、青森県全体がそういうふうな気運が醸成されればいいのかなというふうに思いました。

というようなことを感じました。

以上でございます。

(知事)

ありがとうございます。

是非、立志の方でそういうリクエストがございましたから積極的に行ってください。岡本さんも忙しいかもしれないけども、また是非、高校生といろいろとプログラムを作ったりとか、ご協力いただければと思います。

本当によろしくお願いします。

長谷川さん、これだけ校長先生のドンが、親分が、凄い期待しているということを言っていたので、どういうことを今、将来、青森県、自分が今まで育ててもらったんだけど、今度、どういうふうにも人づくりのことについて考えているかとか、県の施策についてでもいいけど、折角だから校長先生に答えてくれれば。

(長谷川さん)

私事でとても恐縮なのですが、私は、今現在、流通ビジネス系列で起業家教育プログラムだったり、ビジネスプランコンテストなどに参加しているのですが、それで起業家について勉強していて、将来は困っている人や苦しんでいる人のために起業ができれば、と考えています。

そのために大学で今以上に起業についてとか、ビジネスについてなど、詳しく学んでいきたいと考えています。

以上です。

(知事)

ありがとう。

その他、どなたか。

委員長、沼尾委員長、幼児教育のみならず、全般について。

(沼尾氏)

青森県私立幼稚園連合会から参りました沼尾と申します。

私達は、幼児教育ということで、小さい子ども達を育てております。

じゃ、何を育てるのかなって、ずっとずっと今までやって参りました。この道、40数年になりますけども、やはり、40数年前の子どもと今の子どもとだと、大分違いがあるような気がします。それは、どこが違うかという、やっぱり保護者の考え方、保護者のあり方が大分変わってきているように思います。

ですから、私達は、じゃ、子ども達に何を指導していけば良いかということと共に、保護者も一緒に育てて欲しい、今の時代に合わせた保護者の皆様が子ども達にとって真似されても良いような生き方をして欲しいということを常に保護者の皆様にお話させていただいております。

やはり、よくお母様方が「どうしてうちの子、こんなに引っ込み思案なんでしょう。先生、どうすればいいですか」って質問されます。その時に「お母さんは積極的ですか？」とお聞きすると、「いや、私は苦手なんです」っておっしゃいますね。「親に似ない子はないんですよ」というふうにお話します。そうすると、「あっ」って気がつくようです。

ですから、お母様方、お父様方をちゃんと、真似されても良いような生き方をして欲しいというふうにもいつもお話ししながら、子ども達はその自分達が育てたように育っていきますよというふうにお話しております。

ですから、私達教師としても、それから先生方にもしてみても、子ども達に憧れられる、あの先生いいな、なりたいなと思ってもらえるような先生になって欲しいなと、いつも先生方にお話しております。

そういう先生方も親も輝いている姿を子ども達が見たら、私も大きくなったらあんなふうになりたいなって思ってもらえるような、そういうような先生方が育っていけばいいなと。それが、ひいては最終的には青森県にとって良い人財が育っていくのかなと、何かかなり20年先、遠くになりますけども、そんなふうにお話しております。

よろしいでしょうか。

(知事)

ありがとうございます。

それでは、農林水産業関係で、我々、浜の塾とかつくって、要は補助金的なことが産業の基盤になるのではなくて、本当に良いものを作って、しっかりとマーケティングして、売って、稼いで、財務をちゃんとやるというようなことを実は攻めの農林水産業として重視してきました。だからこそ、そういう塾を作って人財育成ということをやっていたんですけど。

私、いつもセールスを一緒に歩きながら、本当に青森県の農林水産業に関わっている方々、本当に変わったと思っています。良いものを作って、ちゃんとセールスして、自分達で経済にすると。そういったことが始まってきているのですが、是非、この分野における、第一次産業における人財育成等につきまして、是非、何かあれば。

本当に良く変わったと思っています。

(小出氏)

ありがとうございます。

県漁連の小出といいます。

まず、今日の感想を述べさせていただきます。

昨年も私、この場に立たせていただいたのですが、立志挑戦の会の皆さんと、高校生の発表もありました。今日も聞かせていただきました。

まず、立志挑戦の会、凄い素晴らしく頑張っていたので、これからもその活動を広めてもらいたいと期待しております。

高校生の方にも、積極的になれたとか、変わったとか、まだ高校生ですから、この先までありますので、これからも伸びていこうと期待しております。

今、知事さんから漁業界の方の人財育成を言われましたけども、確かに変わってはきているんですが、正直言って、同じ業界の中にいる人間とすればまだまだなんです。

というのは、まず、切実な話をさせていただければ、漁業者自体が減ってきているし、後継者不足含め、それから、この漁業者を支えるべき漁協の方でも、最近、経営の不振などもあるんですけども、経験した職員の方が辞めていかれると、その後を継ぐ人達がなかなか育っていないというふうな事務的な部分といろいろ問題がございます。

今日、聞かせただいて、やはり意識改革といいますか、それはやっぱり漁業者だけではなくて、漁協の人も、また我々漁連も変わっていかなきゃいけないなと思って、改めて感じさせていただきました。

正直言って、私みたいに年いっていると、なかなか頭が固くなって、なかなか発想の転換というのができないんですが、これから若い人を鍛えながら、漁業者もそうですけども、漁連の人間も変わっていかなければと思っているところで、組織再編の話も出ていますので、これから頑張っていきたいと思っています。

ちょっと感想になってしまいましたけども、よろしくお願ひします。

(須郷氏)

銀行協会の須郷と申します。

昨年もまたという場でしたけど。

今回も佐々木さんはじめ、それから関係の皆さんの方々と人財、人づくりという部分については、非常に、我々の方とすれば、非常に参考になるといったら本当に申し訳ないんですけど、そういうふう感じていました。

去年もお話したみたいに、各金融機関、それぞれの中には、やはり社会貢献活動という大きな位置付けの中で、それぞれ地域に対して人財育成、人づくりという部分では関わりがございます。

我々、銀行協会とすれば、全国銀行協会ですね、こちらの方でどこでも出張講座ということで、例えば中学生、高校生、大学生、そういった方々が実際に社会に出る、あるいは大学生であっても、社会人的な常識といいますか、金融常識みたいなものも必要だと思いますので、もしそういうご要望がありましたら、今日、教育関係の方々も沢山いらっしゃっていますので、私共の方にご紹介していただければなと思っていました。

詳しいことは、全国銀行協会のホームページ等で確認していただければ。その他のことであれば、私共の方にご連絡いただければなと思います。

以上でございます。

(知事)

ということで、ほぼ時間ということになりましたので、私から御礼方、申し上げます。

人づくりというのは、そう簡単にいくわけではなくて、お互いにいろんな、今日、県の方から出ささせていただきましたけど、仕掛けをしてきました。この仕掛けを縦、横こうね。

これが、いずれ網の目のように、段々回を重ね、それぞれのチームがそれぞれに動き出すことによって成果が出てくる。本当にどうであったのかというのが出てきます。

青森を愛する人づくり戦略を県でスタートさせまして、そんなのをやっているところってないぞと逆に驚かれたんですよ。人がやはりその地域、この国にとっても、世界にとっても未来をつくっていくものなんだと思います。良い未来のために自ら考え、自ら行動し、いろんなことを実行していく、考えただけではなく実行していく。そういった人が人を作る。人が人を作っていく。そういった仕組みづくりをずっと続けてきたことを自分としては今、思い返しています。

その素晴らしい成果として、長谷川さんから感じた次第です。

頑張れ、頑張れという言葉は重いかもしれない。堂々と生きてください。

(長谷川さん)

はい、堂々と生きます。

(知事)

そういうわけで、常にARCにはいろいろとご面倒を掛けるけども、どんどん行って、どんどんいろんなところに行って、どんどんはまってください。お願いします。

今日、本当に岡本さんありがとうございました。

これからまたいろいろ厳しいと思います。いろいろなことがあると思いますけども、人が人を呼ぶ会社だということで、いいな、ということを感じました。

そういうわけで毎年、話を急に振って申し訳なかったけども、しっかりと、少なくとも最初に自分としては志、「人は財（たから）だ、青森県」、この想いを貫いてきて、こういうところまで至ったんだということを感じたところでした。

今日は本当にありがとうございました。

(司会)

以上をもちまして、人づくり戦略推進会議を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。